

ケーブルベヤの取扱

所要時間：約5分

ケーブルベヤは、正しい選定と取扱説明書の取扱上の留意点を守って、設置してください

1. ケーブルベヤの**寿命の判断目安**
2. **ロングスパン（長ストローク）仕様**の**寿命の判断目安**
3. 短期間で寿命に至る原因
4. ケーブルベヤの延命策

ケーブルベヤの寿命は、

- ① **ケーブルベヤ**が経年劣化などで割れなど**破損**した時点
- ② **ケーブル・ホースの保護性**および**ケーブルベヤ**や**装置本体の安定した挙動が確保できなくなった**時点

が目安です

②の安定した挙動が確保できなくなる原因のひとつは、

フリースパン部のたわみが進行することです

この**たわみ**は、下記の様な理由で発生します

ケーブルベヤが稼動（**往復運動**）することで

リンク連結部の**ピン**や**穴**が**摩耗**したり、

ノーバックベンドを規制（**保持**）する部分が**摩滅**することで

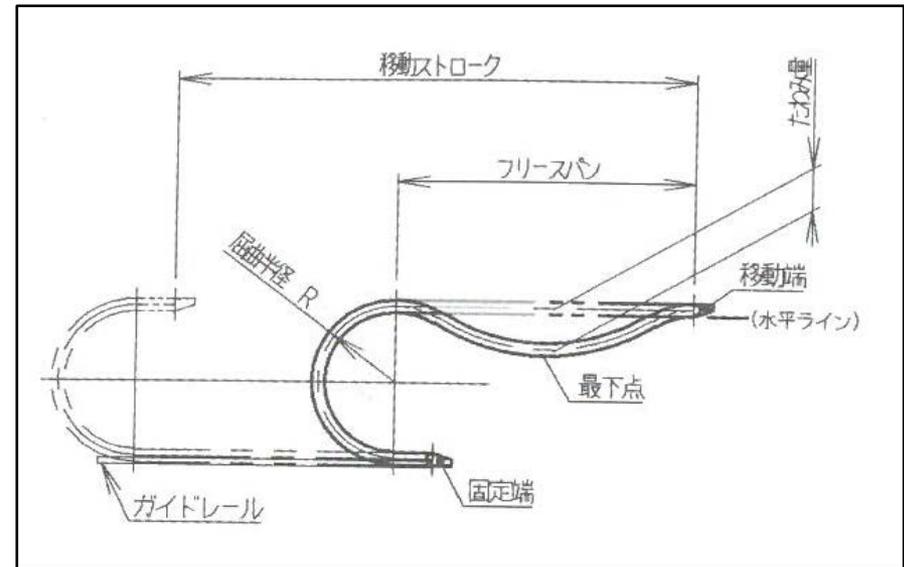
徐々にたわみが大きくなっていきます

フリースパン部のたわみ量の

限界値（目安）は、

- ① フリースパン長さの10%分
- ② ケーブルベヤ屈曲半径(R)分

のどちらか小さい方です



フリースパン長さ500mm、屈曲半径 R 55のケーブルベヤの場合

- ① フリースパン長さ：500mm (⇒ $500\text{mm} \times 10\% = 50\text{mm}$)
- ② ケーブルベヤ屈曲半径：55mm

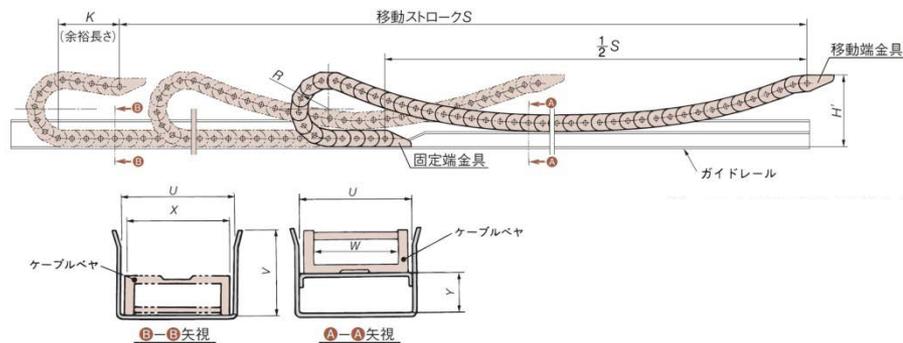
この場合、たわみ量の限界値（目安）は 50mmです

ロングスパン仕様とは？

ケーブルベヤ能力線図のフリースパンを越える**長ストローク**が必要なとき、ガイドレール上を**スライド走行**する使用方法です

このとき、ケーブルベヤ内周側が摺動しますので、使用に伴いリンク内周側が摩滅してきます

リンク高さの摩耗量が、許容摩耗量に達したときが交換の目安です



※許容摩耗量は、当社カタログをご参照ください

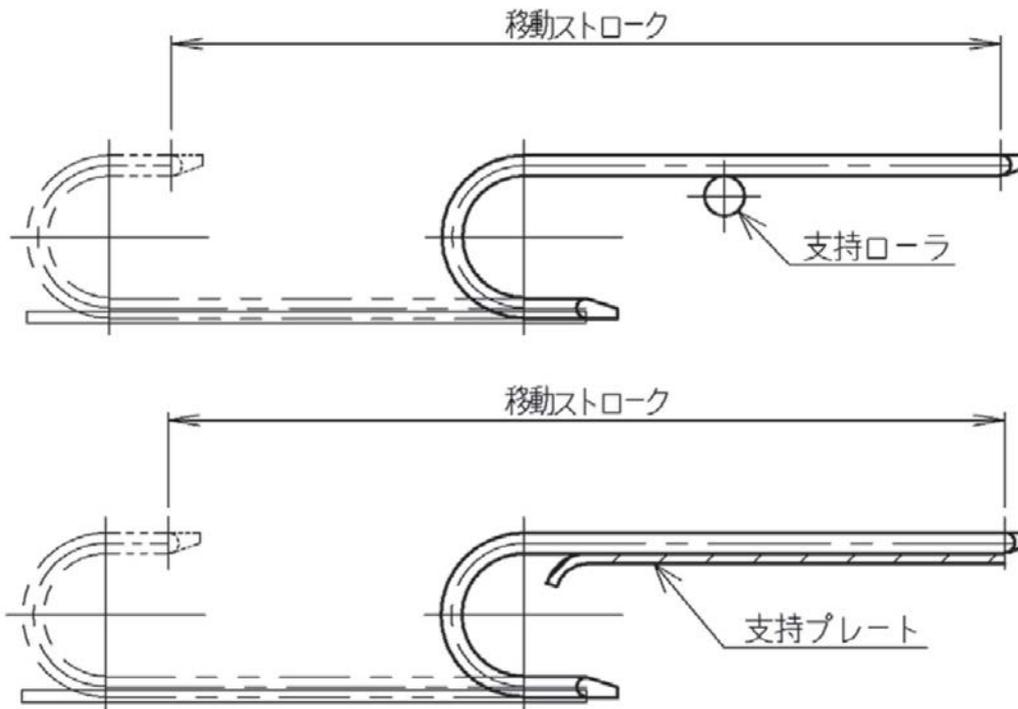
ケーブルベヤは下記のような場合、

短期間で寿命に至ってしまうケースがあります

1. **加減速度**と**稼働頻度**が高いとき
2. **粉塵**等の**摩耗介在物**があるとき
3. 外部からの**振動**があるとき
4. **設置精度**が悪いとき

ケーブルベヤの延命策

ケーブルベヤのたわみを規制できるよう、稼働初期から
支持ローラもしくは**支持プレート**を設置しておくことで
 ケーブルベヤ本体の延命が可能です



お客様問合わせ窓口

【チェーン】 TEL (0120)251-664

【スプロケット】 TEL (0774)43-8911

【ケーブルベヤ】 TEL (0120)628-289